

1248-541P
09/852 001
Birch Stewart



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2001年 4月27日

出 願 番 号
Application Number:

特願2001-133575

出 願 人
Applicant(s):

シャープ株式会社

RECEIVED

JUL 09 2001

Technology Center 2600

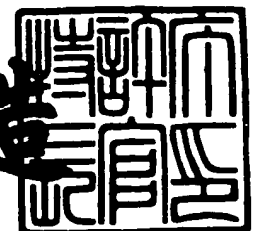
CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

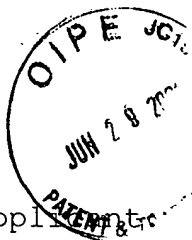
BEST AVAILABLE COPY

2001年 5月31日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造

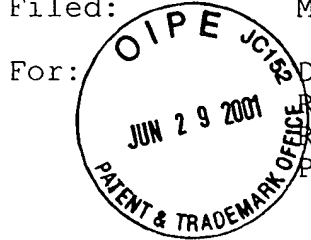




0400
261
PAT
1248-054

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: KAWAJIRI, Momoe Conf.:
Appl. No.: 09/852,001 Group: Unknown
Filed: May 10, 2001 Examiner: UNKNOWN



For: DATA RECORDING DEVICE, PERFORMANCE
RECORDING SYSTEM USING THE SAME, AND
RECORDING MEDIUM STORING DATA RECORDING
PROGRAM

RECEIVED

JUL 09 2001

Technology Center 2600

LETTER

Assistant Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

June 29, 2001

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

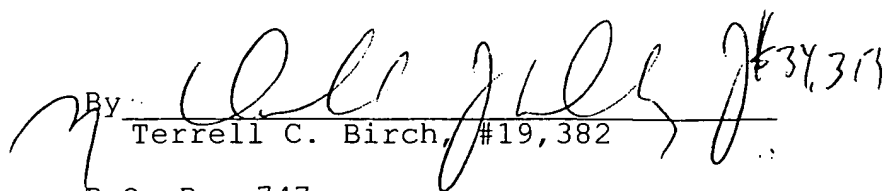
<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2000-137722	May 10, 2000
JAPAN	2001-133575	April 27, 2001

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 02-2448 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By 
Terrell C. Birch, #19,382

TCB/MJL/kss
1248-0541P

P.O. Box 747
Falls Church, VA 22040-0747
(703) 205-8000

Attachment

【書類名】 特許願

【整理番号】 01J01694

【提出日】 平成13年 4月27日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 G11C 13/00

【発明の名称】 データ記録装置、それを用いた興行記録システム、興行
用入場券、データ記録のためのプログラムおよびそのプ
ログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒
体

【請求項の数】 12

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区长池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株
式会社内

【氏名】 川尻 百恵

【特許出願人】

【識別番号】 000005049

【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100080034

【弁理士】

【氏名又は名称】 原 謙三

【電話番号】 06-6351-4384

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-137722

【出願日】 平成12年 5月10日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003229

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9003082

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ記録装置、それを用いた興行記録システム、興行用入場券、データ記録のためのプログラムおよびそのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配信媒体を介して配信されたデータを受信する受信手段と、

上記受信手段によって受信されたデータに含まれるデータ識別子と外部から入力されたデータ識別子とを比較する比較手段と、

上記両データ識別子が一致したとき、そのデータ識別子を含むデータを記憶する記憶手段とを備えていることを特徴とするデータ記録装置。

【請求項 2】

データ記録装置とデータ通信可能に設けられ、データ識別子を記憶する携帯装置から、上記データ識別子を外部から入力されるデータ識別子として受け入れる受入手段を備えていることを特徴とする請求項 1 に記載のデータ記録装置。

【請求項 3】

上記記憶手段から読み出されたデータを再生するデータ再生手段を備え、

上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記受入手段からのデータ識別子に対応するデータが既に記憶されているときに、そのデータを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させる一方、上記データが未だ上記記憶手段に記憶されていないときに、上記受信手段によって受信されたデータに含まれるデータ識別子を上記携帯装置からのデータ識別子と比較し、

上記記憶手段が、その比較の結果一致したデータ識別子を含むデータを記憶することを特徴とする請求項 2 に記載のデータ記録装置。

【請求項 4】

上記受入手段によって受け入れられるデータ識別子が、上記データに含まれる部分データを識別するための部分データ識別子を含み、

上記記憶手段が、上記部分データ識別子が受け入れられたときに、該当する部分データを上記データ再生手段に読み出すことを特徴とする請求項 3 に記載のデ

ータ記録装置。

【請求項 5】

上記記憶手段から読み出されたデータを再生するデータ再生手段と、

上記受入手段によって受け入れられたデータ識別子に対応するアイコンを表示する表示手段と、

上記表示手段によって表示されたアイコンを選択入力する入力手段とを備え、

上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記入力手段によって入力されたアイコンに対応付けられたデータ識別子を含むデータが既に記憶されているときに、そのデータを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させることを特徴とする請求項 2 に記載のデータ記録装置。

【請求項 6】

上記受入手段によって受け入れられるデータ識別子が、上記データに含まれる部分データを識別するための部分データ識別子を含み、

上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記入力手段によって入力されたアイコンに対応付けられた部分データ識別子を含む部分データが既に記憶されているときに、その部分データを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させることを特徴とする請求項 5 に記載のデータ記録装置。

【請求項 7】

興行に対して付与されたデータ識別子を興行先で得て記憶する携帯自在の携帯装置と、

興行についての記録データをデータとしてデータ識別子と共に配信する配信媒体と、

上記携帯装置からのデータ識別子および上記配信媒体からのデータ識別子に基づいて記録データを記憶する請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載のデータ記録装置とを備えていることを特徴とする興行記録システム。

【請求項 8】

配信媒体を介して受信されたデータに含まれるデータ識別子と外部から入力されたデータ識別子とを比較する処理と、

上記両データ識別子が一致したとき、そのデータ識別子を含むデータを記憶す

る処理とを実行するデータ記録のためのプログラム。

【請求項 9】

記憶されたデータを参照して、外部から入力されたデータ識別子と対応するデータが既に記憶されているときに、そのデータを読み出して再生する一方、上記データが未だ記憶されていないときに、上記両データ識別子を比較し、一致したデータ識別子を含むデータを記憶する処理を実行する請求項 8 に記載のプログラム。

【請求項 1 0】

請求項 8 または 9 に記載のプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 1 1】

請求項 7 に記載の興行記録システムにおける上記携帯装置として用いられ、上記データ識別子を上記興行先で得る代わりに、上記データ識別子を予め記憶するデータ識別子記憶手段を備えていることを特徴とする興行用入場券。

【請求項 1 2】

上記データに含まれる部分データに対応した情報を予め記憶する情報記憶手段と、

上記情報記憶手段に記憶されている情報を再生する再生手段とを備えていることを特徴とする請求項 1 1 に記載の興行用入場券。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、実際に観てきた興行の内容を後日記録できるデータ記録装置、それを用いた興行記録システムおよびデータ記録のためのプログラムを記録した記録媒体に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

一般に、野球や演劇等の興行を楽しむには、実際に野球場や劇場といった興行場所に行ってその興行を観たり、実際の興行場所には行かずにテレビジョン等の

放送で中継される興行を視聴したりする。実際に興行場所で興行を観た場合は、臨場感にあふれた興行内容を楽しむことができ、かつ、思い出もその場では作れる。また、放送でも、興行場所で興行を観る場合に比べて臨場感に劣るものの、興行内容を楽しむことができる。しかしながら、記録を残していなければ、興行内容の記憶が薄れていき、思い出を次第に忘れていってしまう。

【 0 0 0 3 】

したがって、その楽しみを後に振り返るには、興行場所で当日の興行を写真機、ビデオ機器等で記録するか、あるいは上記の放送を記録（録画、録音等）することが必要である。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、興行場所で興行の正確な記録を残そうとすれば、記録に専念する結果、当日の興行を楽しむことができず、臨場感あふれた思い出が残らない。しかも、記録の視点は、当然ながら写真機、ビデオ機器等の撮影者が座る当日の座席からの視点に限られ、視点を変えていろいろな角度から記録することはほとんど不可能である。

【 0 0 0 5 】

一方、放送を記録する場合、確かに正確、かつ視点を変えた記録は可能であるが、放送時間の制約から全興行を記録するのは難しい。夜間の電波料の安い時間帯に完全な記録を放送したとしても、その放送時間を調べて予約録画することを意識する必要がある。また、放送では、臨場感にあふれた思い出は残らない。

【 0 0 0 6 】

本発明は、上記の事情に鑑みてなされたものであって、実際の興行を楽しんだ結果としての臨場感のある思い出を得ることができるだけでなく、その興行内容の正確な記録を容易に得ることができるデータ記録装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

本発明のデータ記録装置は、上記の課題を解決するために、配信媒体を介して

配信されたデータを受信する受信手段と、この受信手段によって受信されたデータに含まれるデータ識別子と外部から入力されたデータ識別子とを比較する比較手段と、上記両データ識別子が一致したとき、そのデータ識別子を含むデータを記憶する記憶手段とを備えていることを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

上記の構成では、例えば、データが興行を記録したデータである場合、そのデータが受信手段によって配信媒体を介してデータ記録装置に受信される一方、興行に対応するデータ識別子がユーザーによってデータ記録装置に入力される。ユーザーは、データ識別子を例えば興行先で入手してデータ記録装置に入力する。データ記録装置では、比較手段によって両データ識別子が比較され、その結果両者が一致すると、そのデータ識別子を含むデータが記憶手段によって記憶される。

【 0 0 0 9 】

このように、配信されたデータから、入力されたデータ識別子に対応するデータを選択して記憶することによって、ユーザーが興行先で観覧した興行に対応するデータ識別子によって特定される興行に関するデータを記録することができる。そのデータが、例えば、興行の内容を動画、静止画、音声等の形態で記録したデータであれば、ユーザーは、その興行を観覧するとともに、その興行の内容を記憶手段によって記録して残すことができる。

【 0 0 1 0 】

上記のデータ記録装置においては、データ記録装置とデータ通信可能に設けられ、データ識別子を記憶する携帯装置から、上記データ識別子を外部から入力されるデータ識別子として受け入れる受入手段を備えていることが好ましい。このように、携帯装置に記憶されたデータ識別子を受入手段を介してデータ記録装置に入力することによって、ユーザーが、興行先でデータ識別子を携帯装置に記憶させて自宅に持ち帰り、データ記録装置に装着することによってデータ識別子をデータ記録装置に入力することができる。

【 0 0 1 1 】

また、この構成においては、上記記憶手段から読み出されたデータを再生する

データ再生手段を備え、上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記受入手段からのデータ識別子に対応するデータが既に記憶されているときに、そのデータを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させる一方、上記データが未だ上記記憶手段に記憶されていないときに、上記受信手段によって受信されたデータに含まれるデータ識別子を上記携帯装置からのデータ識別子と比較し、上記記憶手段が、その比較の結果一致したデータ識別子を含むデータを記憶することが好ましい。

【 0 0 1 2 】

このような構成では、データ識別子が携帯装置からデータ記録装置に入力されると、データ記録装置において、そのデータ識別子を基に比較手段によって対応するデータが参照され、その結果、データ識別子に対応するデータが記憶されておれば、そのデータが記憶手段から読み出されてデータ再生手段によって再生される。一方、データ参照の結果、データ識別子に対応するデータが記憶されていなければ、前述のような比較手段による両データ識別子の比較と、比較の結果で一致したデータ識別子を含むデータの記憶手段による記憶とが行われる。

【 0 0 1 3 】

このように、データ再生手段を備えることによって、既に記録されたデータが記憶手段から読み出して再生される。また、データが記憶されていない場合は、所望のデータを自動的に選択して記憶する。

【 0 0 1 4 】

この構成においては、上記受入手段によって受け入れられるデータ識別子が、上記データに含まれる部分データを識別するための部分データ識別子を含み、上記記憶手段が、その部分データ識別子が受け入れられたときに、該当する部分データを上記データ再生手段に読み出すことが好ましい。部分データとしては、例えば、興行の各シーンを捕らえた静止画または動画が挙げられ、より具体的には、演劇等のストーリーが既知であれば、その各シーンの冒頭部分の静止画または動画や、野球のようにストーリーがない場合は、各出場選手の静止画、動画等が好適である。これらの部分データに部分データ識別子として、例えば補助のIDが付加されている。このように、部分データ識別子をデータ識別子として用いる

ことによって、所望の部分データを再生することができる。

【0015】

あるいは、携帯装置を備える前記の構成においては、上記記憶手段から読み出されたデータを再生するデータ再生手段と、上記受入手段によって受け入れられたデータ識別子に対応するアイコンを表示する表示手段と、上記表示手段によって表示されたアイコンを選択入力する入力手段とを備え、上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記入力手段によって入力されたアイコンに対応付けられたデータ識別子を含むデータが既に記憶されているときに、そのデータを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させることが好ましい。

【0016】

このような構成では、受入手段によって携帯装置からデータ記録装置に受け入れられたデータ識別子に対応するアイコンが表示手段によって表示される。表示されたアイコンから、入力手段によって所望のアイコンが選択入力されると、そのアイコンに対応するデータ識別子のデータが記憶されていることが比較手段によって確認されると、そのデータが記憶手段から読み出されてデータ再生手段によって再生される。

【0017】

このように、データ再生手段を備えることによって、既に記録されたデータが記憶手段から読み出して再生される。また、アイコンによって再生すべきデータが選択されるので、データ記録装置にデータ識別子を入力するために、データ記録装置を携帯装置と常にデータ通信可能な状態におく必要がなくなる。

【0018】

この構成においては、上記受入手段によって受け入れられるデータ識別子が、上記データに含まれる部分データを識別するための部分データ識別子を含み、上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記入力手段によって入力されたアイコンに対応付けられた部分データ識別子を含む部分データが既に記憶されているときに、その部分データを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させることが好ましい。このように、部分データ識別子をデータ識

別子として用いることによって、アイコンに対応する所望の部分データを再生することができる。したがって、興行においてユーザーの見たいシーン等を容易に再生することができるという効果を奏する。

【 0 0 1 9 】

本発明の興行記録システムは、上記の課題を解決するために、興行に対して付与されたデータ識別子を興行先で得て記憶する携帯自在の携帯装置と、興行についての記録データをデータとしてデータ識別子と共に配信する配信媒体（例えば、放送系またはネットワーク）と、上記携帯装置からのデータ識別子および上記配信媒体からのデータ識別子に基づいて記録データを記憶する、前述のように構成されるいずれかのデータ記録装置とを備えていることを特徴としている。

【 0 0 2 0 】

上記の興行記録システムでは、例えば、携帯装置がＩＣカード等で構成されることによって当日の入場券を兼ねるようになっておれば、ユーザーが、少なくとも当日の興行のデータ識別子が記憶された携帯装置を自宅に持ち帰り、データ記録装置にそのデータ識別子を与える。一方、興行の記録は、データとして放送系またはネットワークの配信媒体を介して、携帯装置に記憶された興行のデータ識別子と対応して配信される。

【 0 0 2 1 】

データ記録装置において、携帯装置からのデータ識別子と、配信されたデータに含まれるデータ識別子とが一致すると、そのデータ識別子に対応する興行の正確な記録のデータが記憶される。

【 0 0 2 2 】

このように、配信されたデータから、入力されたデータ識別子に対応するデータを選択して記憶することによって、ユーザーが興行先で観覧した興行に対応するデータ識別子によって特定される興行に関するデータを記録することができる。それゆえ、ユーザーは、その興行を観覧するとともに、その興行の内容をデータ記録装置での記憶によって記録して残すことができる。

【 0 0 2 3 】

本発明のデータ記録のためのプログラムは、上記の課題を解決するために、配

信媒体を介して受信されたデータに含まれるデータ識別子と外部から入力されたデータ識別子とを比較する処理と、上記両データ識別子が一致したとき、そのデータ識別子を含むデータを記憶する処理とを実行することを特徴としている。

【 0 0 2 4 】

このプログラムで実行されるデータ記録においても、前述のデータ記録装置でのデータ記録と同様、配信されたデータから、入力されたデータ識別子に対応するデータを選択して記憶することによって、ユーザーが興行先で観覧した興行に対応するデータ識別子によって特定される興行に関するデータを記録することができる。それゆえ、ユーザーは、その興行を観覧するとともに、その興行の内容を記憶処理によって記録して残すことができる。

【 0 0 2 5 】

上記のプログラムは、記憶されたデータを参照して、外部から入力されたデータ識別子と対応するデータが既に記憶されているときに、そのデータを読み出して再生する一方、上記データが未だ記憶されていないときに、上記両データ識別子を比較し、一致したデータ識別子を含むデータを記憶する処理を実行するデータ記録のためのプログラムを記録したことが好ましい。このプログラムによっても、前述のデータ記録装置と同様、既に記録されたデータが読み出されて再生される。また、データが記憶されていない場合は、所望のデータが自動的に選択されて記憶される。

【 0 0 2 6 】

また、上記のプログラムは、いずれもコンピュータ読み取り可能な記録媒体に記録されていてもよい。

【 0 0 2 7 】

本発明の興行用入場券は、上記の課題を解決するために、上記の興行記録システムにおける上記携帯装置として用いられ、上記データ識別子を上記興行先で得る代わりに、上記データ識別子を予め記憶するデータ識別子記憶手段を備えていることを特徴としている。

【 0 0 2 8 】

このような構成では、前記の興行記録システムで用いられる携帯装置のように

、データ識別子を興行先で得るのではなく、携帯装置として用いられる興行用入場券のデータ識別子記憶手段に予め記憶されている。それゆえ、データ識別子を興行先で入力するための手段を省くことができる。また、この興行用入場券を興行毎に1回限り発行される入場券として用いることができる。携帯装置を入場券として利用することによって、携帯装置を例えばカード状に形成すれば、携帯装置の製作コストを低減させることができる。しかも、興行先に入場するための入場券として携帯装置を入手することができ、利用機会が少ないにも関わらず異なる興行に共通して使用できるような携帯装置を購入する必要性がなくなる。

【0029】

上記の興行用入場券は、上記データに含まれる部分データに対応した情報を予め記憶する情報記憶手段と、この情報記憶手段に記憶されている情報を再生する再生手段とを備えていることが好ましい。

【0030】

このような構成では、情報記憶手段に記憶されている情報、例えば画像が、再生手段によって再生される。それゆえ、興行に関する画像などを記憶させておくことによって、興行用入場券自体が、興行の思い出をたどる記念物となり、かつ、興行を正確に再生する際の物理的なキーとなる。

【0031】

【発明の実施の形態】

〔実施の形態1〕

本発明の実施の一形態について図1ないし図5に基づいて説明すれば、以下の通りである。

【0032】

図1に示すように、本実施の形態に係る興行記録システムは、携帯装置1と、情報処理装置2と、興行先101と、放送系102またはネットワーク103とから構成されている。

【0033】

携帯装置1は、野球等のスポーツ、演劇等の公演といった興行を楽しむユーザーが、その興行を催す興行先101へ行くときに携帯自在な装置である。この携

帯装置 1 は、興行先 1 0 1 から送信される興行に対する識別子（データ識別子）を受信して記憶しておき、情報処理装置 2 に送信するように構成されている。携帯装置 1 としては、例えば、携帯端末や携帯電話のような装置が好適であるが、磁気等により識別子等が書き込み（記憶）可能に構成されておれば、切符や入場券のようなカード形態であってもよく、より小型化が可能である。カード状の携帯装置 1 は、上記のように識別子を記憶する機能を有する IC カード等によって構成される。

【 0 0 3 4 】

この携帯装置 1 は、前述の情報処理装置 2 と接続可能となるように、図示はしないが、情報処理装置 2 との接続部を有している。その接続方法としては、例えば、一般家屋の机上に設置された情報処理装置 2 とケーブルによって接続する方法、携帯装置 1 自体を情報処理装置 2 の装着用スロット等に差し込む方法、あるいは無線通信によって携帯装置 1 から情報処理装置 2 へ送信する方法が挙げられる。

【 0 0 3 5 】

データ記録装置としての情報処理装置 2 は、携帯装置 1 から送信された識別子と、放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 によって送信された識別子とを比較して、両者が一致したときに、その識別子に対応付けられた興行の記録データを抽出して表示するように構成されている。この情報処理装置 2 は、例えば、一般的なパーソナルコンピュータ、テレビジョン受像機等によって構成されている。

【 0 0 3 6 】

興行先 1 0 1 は、野球や演劇等の興行が催される球場や劇場等の会場であって、その興行に対する識別子を発行する。識別子は、例えば、携帯装置 1 が携帯電話であれば電波で送信されたり、また、入場券形式のカード状の携帯装置 1 であれば、入場ゲートで磁気的あるいは電子的に識別子を書き込まれたりといった方法で発行される。

【 0 0 3 7 】

配信媒体としての放送系 1 0 2 は、放送局 1 0 4 から送信される興行の記録データを情報処理装置 2 が受信可能な形態で有線または無線によって放送する放送

システムであり、基地局や中継局を含んでいる。放送局 1 0 4 は、興行先 1 0 1 から提供される興行内容の記録データと、その記録データを識別するための識別子とを対にして送信する。

【 0 0 3 8 】

配信媒体としてのネットワーク 1 0 3 は、サーバー 1 0 5 から提供される興行の記録データを情報処理装置 2 が受信可能な形態で伝送するインターネット等のデータ送信システムであり、D N S (Domain Name System)等を含んでいる。サーバー 1 0 5 は、興行先 1 0 1 から提供される興行内容の記録データと、その記録データを識別するための識別子とを対にして格納しており、情報処理装置 2 からの要求に応じて送信する。

【 0 0 3 9 】

続いて、上記の携帯装置 1 について詳細に説明する。図 2 に示すように、携帯装置 1 は、受信部 1 1、識別子記憶部 1 2 および送信部 1 3 を備えている。

【 0 0 4 0 】

受信部 1 1 は、興行先 1 0 1 から送信される、興行に対する識別子を受信する。受信部 1 1 は、識別子を電波等で受信する場合、アンテナ、受信回路等を含み、識別子を電子的に受信する場合、そのためのインターフェースを含み、識別子を磁氣的に記録する場合、識別子が磁氣的に書き込み可能となるような素子等を備えている。興行に対する識別子とは、各興行に対して一意に決定されるものであり、後に放送系 4 もしくはネットワーク 5 から正確な記録を取得する際に必要なキーとなる。

【 0 0 4 1 】

識別子記憶部 1 2 は、受信部 1 1 で受信された識別子を記憶するために R A M 等の半導体メモリやその他の記憶素子や記憶装置によって構成される。また、識別子記憶部 1 2 は、携帯装置 1 内に固定される構成だけでなく、コンパクトフラッシュメモリのように携帯装置 1 に着脱自在となる形態であってもよい。識別子記憶部 1 2 がこのように構成されている場合、携帯装置 1 を情報処理装置 2 に接続する代わりに識別子記憶部 1 2 を情報処理装置 2 に接続しても、識別子を情報処理装置 2 に送信することができる。これにより、情報処理装置 2 は、携帯装置

1 を接続するための専用の接続部を備える必要がなく、一般的な着脱自在型のメモリを接続できる接続部を備えていればよいので、汎用性の点で有利である。

【 0 0 4 2 】

送信部 1 3 は、携帯装置 1 が情報処理装置 2 に接続されたときに、識別子記憶部 1 2 に記憶された識別子を情報処理装置 2 に送信する。この送信部 1 3 は、情報処理装置 2 の後述する識別子受信部 2 1 が受信可能であることを認識してから送信を行うようになっている。

【 0 0 4 3 】

さらに、上記の情報処理装置 2 について詳細に説明する。図 3 に示すように、情報処理装置 2 は、識別子受信部 2 1、識別子記憶部 2 2、データ受信部 2 3、受信データ分離部 2 4、識別子比較部 2 5、記録データ出力部 2 6、データ記憶部 2 7 および再生部 2 8 を備えている。

【 0 0 4 4 】

受入手段としての識別子受信部 2 1 は、情報処理装置 2 に携帯装置 1 が通信可能に接続された状態で、携帯装置 1 における前述の識別子記憶部 1 2 から読み出されて送信部 1 3 から送信された識別子を受信する。この識別子受信部 2 1 は、携帯装置 1 との前述の接続方法を実現しうるように構成されている。

【 0 0 4 5 】

識別子記憶部 2 2 は、識別子受信部 2 1 で受信された識別子を記憶するために、前述の識別子記憶部 1 2 と同様、RAM 等の半導体メモリやその他の記憶素子や記憶装置によって構成される。この識別子記憶部 2 2 は、識別子比較部 2 5 およびデータ記憶部 2 7 に識別子を読み出す。

【 0 0 4 6 】

受信手段としてのデータ受信部 2 3 は、放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 から常に送信されてくる正確なデータを受信する。このため、データ受信部 2 3 は、放送に対してはチューナ等を含む一方、ネットワーク通信に対してはモデム等を含んでいる。上記のデータは、図 4 に示すように、その興行の識別子と、記録データの本体とのセットで送信される。

【 0 0 4 7 】

受信データ分離部 2 4 は、上記の記録データと識別子との組み合わせから識別子を抽出する。また、受信データ分離部 2 4 は、受信データから記録データを分離して記録データ出力部 2 6 に送出する。

【 0 0 4 8 】

比較手段としての識別子比較部 2 5 は、受信データ分離部 2 4 で分離された識別子と、識別子記憶部 2 2 から読み出された識別子とを比較し、その結果一致した場合に例えば“1”を出力する一方、一致しない場合に例えば“0”を出力する。また、識別子比較部 2 5 は、識別子記憶部 2 2 からの識別子に対応する記録データが既にデータ記憶部 2 7 に記憶されているか否かをチェックし、記憶されている場合にデータ記憶部 2 7 に対し、その識別子に対応する記録データの読み出しを指示する一方、記憶が確認されなければ上記の比較処理を行うようになっている。

【 0 0 4 9 】

記録データ出力部 2 6 は、識別子比較部 2 5 からの“1”が入力されたときのみ、それに対応する、受信データ分離部 2 4 で分離された記録データをデータ記憶部 2 7 に出力する。

【 0 0 5 0 】

記憶手段としてのデータ記憶部 2 7 は、識別子記憶部 2 2 からの識別子と、記録データ出力部 2 6 からの記録データ本体とをテーブルの形態で対応させて記憶する。したがって、記録データ出力部 2 6 を介してデータ記憶部 2 7 に出力されなかった記録データに対応する識別子については記録データが記憶されない。

【 0 0 5 1 】

データ再生手段としての再生部 2 8 は、データ記憶部 2 7 から読み出された記録データを再生する。記録データは、一般的には音声や画像（動画、静止画等）等であるが、画像と音声との組み合わせであってもよい。したがって、この再生部 2 8 は、これらの記録データの再生を実現するために、平板型表示パネル（液晶パネル、E L パネル等）や C R T のような表示装置および音声再生のための再生装置（再生回路、増幅回路、スピーカ等）によって構成されている。

【 0 0 5 2 】

上記の受信データ分離部24、識別子比較部25および記録データ出力部26からなり、所望の記録データを抽出する記録データ抽出部29は、好適には、パッケージソフトウェアとしてプログラムメディアの形態で提供可能なソフトウェアによって実現され、情報処理装置2と分離可能な記録媒体8によって情報処理装置2にインストールされる。また、このソフトウェアは、必要に応じて、情報処理装置2の出荷時などに、予め情報処理装置2にインストールされていてもよい。

【0053】

上記のプログラムは、マイクロプロセッシングユニット30によって実行される。

【0054】

ここで、前記のプログラムメディアは、磁気テープやカセットテープなどのテープ系、フロッピーディスクやハードディスクなどの磁気ディスク系、CD-ROM、MO、MD、DVDなどの光ディスクの光ディスク系、ICカード（メモリカードを含む）、光カードなどのカード系、あるいはマスクROM、EPROM、EEPROM、フラッシュROMなどによる半導体メモリを含めた固定的にプログラムを担持する媒体であってもよい。

【0055】

また、情報処理装置2がインターネットを含むネットワーク103と接続可能なシステム構成であることから、記録媒体8は、ネットワーク103からプログラムをダウンロードするように流動的にプログラムを担持する媒体であってもよい。ただし、このようにネットワーク103からプログラムをダウンロードする場合には、そのダウンロード用プログラムは予め情報処理装置2に格納されるか、あるいは別な記録媒体からインストールされるものであってもよい。

【0056】

上記のように構成される興行記録システムを利用して興行を記録するには、まず、ユーザーが、携帯装置1を持って興行先101に出かけ、興行先101でその興行に対する識別子を携帯装置1の受信部11で受信し、その識別子を識別子記憶部12に記憶させておく。一方、興行先101で催された興行の記録データ

は、放送局 1 0 4 またはサーバー 1 0 5 に提供され、対応する識別子が付された状態で、それぞれ放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 を通じて情報処理装置 2 のデータ受信部 2 3 で受信される。この受信データから抽出された識別子が識別子記憶部 1 2 からの識別子と一致した場合に、識別子記憶部 1 2 からの識別子と、その識別子に対応する、記録データ出力部 2 6 からの記録データとがデータ記憶部 2 7 に記憶される。

【 0 0 5 7 】

放送系 1 0 2 を利用する場合、データは、夜間などに、絶えずまたは間欠的に繰り返し放送局 1 0 4 から送信される。したがって、この場合、情報処理装置 2 に携帯装置 1 を接続しておけば、ユーザーがわざわざデータが送信されてくる時刻を確認する必要がなく、自動的に記録データの記憶が行われる。

【 0 0 5 8 】

一方、ネットワーク 1 0 3 を利用する場合、例えば、インターネットでは、いわゆるプッシュ型情報配信や識別子に付記された URL (Uniform Resource Locator) 等でデータを受信する。プッシュ型情報配信では、夜間などの通信料の安い時間帯に行われるデータ配信が行われる。識別子に URL が付記されていれば、携帯装置 1 が情報処理装置 2 に接続された際に、その URL にアクセスすることによって完全な記録データが取得できる。したがって、ネットワーク 1 0 3 を利用する場合でも、情報処理装置 2 に携帯装置 1 を接続しておけば、ユーザーがわざわざデータが送信されてくる時刻を確認する必要がなく、自動的に記録データの記憶が行われる。

【 0 0 5 9 】

また、ユーザーが、携帯装置 1 を情報処理装置 2 が設置されている自宅等に持ち帰って情報処理装置 2 に接続すると、情報処理装置 2 では、図 5 のフローチャートに示す手順でユーザーが観覧した興行のデータの記録処理が実行される。以下に、その詳細について説明する。

【 0 0 6 0 】

まず、情報処理装置 2 は、携帯装置 1 が挿入されたかどうかを監視している (S 1)。携帯装置 1 が装着されたら、携帯装置 1 の送信部 1 3 から送信される識

別子を、識別子受信部 21 によって受信して識別子記憶部 22 に記憶する (S2)。

【0061】

一方、記録データ本体と、その記録データに対応する識別子とが対応して記憶されているデータ記憶部 27 におけるテーブルを参照して (S3)、識別子比較部 25 にて識別子記憶部 22 から読み出された識別子に対応する記録データが既に記憶されているか否かを確認する (S4)。該当する記録データが記憶されていない場合は、放送系 102 またはネットワーク 103 によって送信されてくるデータを識別子比較部 25 にて監視する (S5)。

【0062】

そして、これらのデータに含まれている識別子が目的とする記録データに対応する識別子であるか否かを、識別子記憶部 22 に記憶されていた識別子を用いてチェックし続け、該当するデータを受信したか否かを判定する (S6)。該当するデータを受信した場合、その識別子と識別子記憶部 22 からの識別子とが一致し、その識別子に対する興行の記録データが目的とする記録データであることが確認されるので、その記録データの本体をデータ記憶部 27 に記憶する (S7)。この処理は、該当する全ての記録データの記憶が終わるまで続けられる (S8)。

【0063】

一方、ステップ S4 において、目的とする識別子のデータが既に記憶済である場合は、データ記憶部 27 に記憶されている記録データを再生、例えば再生部 28 に表示する (S9)。再生は、全記録データが再生し終わるまで続けられる (S10)。

【0064】

以上に述べたように、本実施の形態に係る興行記録システムは、ユーザーが興行先 101 で観覧した興行に対する識別子を携帯装置 1 に記憶する一方、放送系 102 またはネットワーク 103 を通じて送信される興行の記録データに付された識別子と、ユーザーが持ち帰った識別子とが一致したときに、その識別子に対応する記録データを再生するように構成されている。

【 0 0 6 5 】

それゆえ、ユーザーは、興行先 1 0 1 で興行の正確な記録を残すために記録に専念する必要はなく、当日の興行を楽しむことができるだけでなく、放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 を通じて得られた記録データによって臨場感あふれた思い出を残すこともできる。しかも、記録データとして得られる画像や音声は、ユーザーが自ら興行先 1 0 1 で記録する場合のようにユーザーの位置のみに限定されることはなく、テレビジョン放送のように、興行先 1 0 1 での各所から捕らえられて得るものである。また、テレビジョン放送のように、放送時間の制約から全興行が記録できないといった不都合はなく、また、予約録画することを意識する必要もなく、その興行内容を正確かつ容易に記録することができる。

【 0 0 6 6 】

〔実施の形態 2〕

本発明の実施の他の形態について図 5 ないし図 1 0 に基づいて説明すれば、以下の通りである。なお、本実施の形態において、実施の形態 1 における構成要素と同等の機能を有する構成要素については、同一の符号を付記してその説明を省略する。

【 0 0 6 7 】

図 6 に示すように、本実施の形態に係る興行記録システムは、実施の形態 1 の興行記録システムとほぼ同様に、携帯装置 3 と、情報処理装置 4 と、興行先 1 0 1 と、放送系 1 0 2 もしくはネットワーク 1 0 3 とから構成されているが、携帯装置 3 および情報処理装置 4 が、前述の携帯装置 1 および情報処理装置 2 と構成上異なっている。

【 0 0 6 8 】

本実施の形態の興行記録システムは、実施の形態 1 の興行記録システムと大きく異なるのは、携帯装置 3 が、図 6 に示すように、シーン A ～ C 等の名場面の画像を表示する点である。これらは、例えば、演劇の名場面や野球選手の姿といったユーザーに興行を印象付ける対象としてのスナップショットである。ユーザーは、後に、これらのスナップショットを選択することで、所望する場面等の記録データを頭出しして再生することが可能となる。

【0069】

図7に示すように、携帯装置3は、受信部31、受信データ記憶部32、識別子／ID記憶部33、送信部34および入力／表示部35を備えている。

【0070】

受信部31は、実施の形態1の興行記録システムの携帯装置1における受信部11と同等の受信機能を有している。

【0071】

受信データ記憶部32は、受信部31で受信された受信データを記憶するためにRAM等の半導体メモリやその他の記憶素子や記憶装置によって構成される。この受信データは、興行を一意に識別するための識別子と、前述のスナップショット（例えば図6においてはシーンA、シーンBおよびシーンC）のそれぞれを代表する画像（部分データ）と、それらを同一の興行内で一意に識別するID（部分データ識別子）とが含まれている。また、スナップショットを代表するものとしては、画像に限らず、アイコンデータであってもよい。IDは、図8に示す通り、各シーンの先頭部分に付随している。例えば、シーンAに付与されるIDは“IDa”で表され、シーンBに付与されるIDは“IDb”で表され、それぞれに“Da”，“Db”で示される記録データが後続している。

【0072】

識別子／ID記憶部33は、受信データ記憶部32に記憶された受信データのうち、前述の識別子とIDとが記憶される。受信部31で受信された識別子を記憶するためにRAM等の半導体メモリやその他の記憶素子や記憶装置によって構成される。

【0073】

送信部34は、識別子／ID記憶部32に記憶された識別子およびIDを、実施の形態1の携帯装置1における送信部13と同様に、情報処理装置2に接続されたときに情報処理装置2へ送信する。

【0074】

入力／表示部35は、受信データ記憶部32から読み出された、IDに対応する画像等を表示すると共に、ユーザーがダイレクトに希望のシーン等の画像を選

択できるように構成されている。このため、入力／表示部 3 5 は、例えば表示パネル上で入力操作できるタッチパネルのような装置を有している。

【 0 0 7 5 】

ユーザーによる ID の入力、例えば、入力／表示部 3 5 に入力されているスナップショットやアイコンを、ユーザーが直接タッチするか、あるいはマウス等の入力装置でクリックするという方法で行われる。これによって、ユーザーが ID としての番号等を入力する手間が省かれて、入力操作を簡素化することができる。

【 0 0 7 6 】

さらに、上記の情報処理装置 4 について詳細に説明する。図 9 に示すように、情報処理装置 4 は、識別子／ID 受信部 4 1、識別子／ID 記憶部 4 2、データ記憶部 4 3、データ受信部 2 3、受信データ分離部 2 4、識別子比較部 2 5、記録データ出力部 2 6 および再生部 2 8 を備えている。

【 0 0 7 7 】

受入手段としての識別子／ID 受信部 4 1 は、情報処理装置 4 に携帯装置 3 が通信可能に接続された状態で、携帯装置 3 における前述の識別子／ID 記憶部 3 2 から読み出されて送信部 3 4 から送信された識別子および ID を受信する。識別子／ID 記憶部 4 2 は、識別子／ID 受信部 4 1 で受信された識別子および ID を記憶するために、前述の識別子／ID 記憶部 3 3 と同様、RAM 等の半導体メモリやその他の記憶素子や記憶装置によって構成される。

【 0 0 7 8 】

記憶手段としてのデータ記憶部 4 3 は、前述の情報処理装置 2 におけるデータ記憶部 2 7 とほぼ同様に、識別子／ID 記憶部 4 2（識別子記憶部 2 2 に対応）からの識別子と、記録データ出力部 2 6 からの記録データ本体とをテーブルの形態で対応させて記憶する。また、データ記憶部 4 3 は、識別子および記録データ本体と共に識別子／ID 記憶部 4 2 から読み出された ID もテーブルの形態で記憶する。さらに、データ記憶部 4 3 は、識別子／ID 記憶部 4 2 から ID が読み出されて入力されると、テーブルを検索してその ID に対応する記録データを再生部 2 8 に読み出す。

【 0 0 7 9 】

上記のように構成される興行記録システムを利用して興行を記録するには、まず、ユーザーが、興行先 1 0 1 でその興行に対する識別子および I D を携帯装置 3 の識別子 / I D 受信部 3 1 で受信し、その識別子を識別子 / I D 記憶部 3 3 に記憶させておく。また、ユーザーが入力 / 表示部 3 5 から I D を入力することによって選択入力された各シーンを代表する画像等が、入力 / 表示部 3 5 に表示される。

【 0 0 8 0 】

一方、興行先 1 0 1 で催された興行の記録データは、対応する識別子が付された状態で、それぞれ放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 を通じて情報処理装置 4 のデータ受信部 2 3 で受信される。この受信データから抽出された識別子が携帯装置 3 からの識別子と一致した場合に、識別子 / I D 記憶部 4 2 に記憶された識別子および I D と、その識別子に対応する記録データ出力部 2 6 からの記録データとがデータ記憶部 4 3 に記憶される。

【 0 0 8 1 】

また、ユーザーが、携帯装置 3 を情報処理装置 4 が設置されている自宅等に持ち帰って情報処理装置 4 に接続すると、情報処理装置 4 では、図 5 および図 1 0 のフローチャートに示す手順でユーザーが観覧した興行のデータの記録処理が実行される。以下に、その詳細について説明する。

【 0 0 8 2 】

図 5 に示すように、ステップ S 1 からステップ S 8 までの処理手順は、実施の形態 1 の情報処理装置 2 で実行される処理手順と同様であるが、情報処理装置 4 では、ステップ S 9 ・ S 1 0 が、図 1 0 に示すステップ S 1 1 ~ S 1 5 (I ~ II 間) の処理手順に置き換えられる。換言すれば、所望する記録データを、放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 を通じて受信して記憶する処理手順は、実施の形態 1 の場合と同じであり、再生の処理手順が異なる。よって、ここでは、上記のステップ S 1 1 ~ S 1 5 の再生処理手順のみを説明する。

【 0 0 8 3 】

再生処理においては、まず、再生したい記録データが既に情報処理装置 4 に記

憶されている場合、図 5 のステップ S 4 で Y E S と判断されて、図 1 0 に示すようにステップ S 1 1 へ進む。ここでは、該当する識別子の記録データを最初から再生する。この再生は、再生が終了するまで継続される（S 1 2）。

【 0 0 8 4 】

再生の間には、携帯装置 3 のユーザーから入力／表示部 3 5 を介してシーンの I D が指定（選択）されることがあるので、それがあったか否かを判定する（S 1 3）。例えば、その興行が野球であって、シーン A、シーン B、シーン C が、それぞれ 1 回裏、2 回裏、3 回裏であった場合、ユーザーが 1 回裏（シーン A）よりも 3 回裏（シーン C）を先に見たいという要求があるときに、そのシーンに対応する I D を指定をする。このように、ユーザーによって見たいシーンの画像が選択されると、I D が携帯装置 3 の送信部 3 4 から情報処理装置 4 に送信され、識別子／I D 受信部 4 1 を介して識別子／I D 記憶部 4 2 に記憶される。

【 0 0 8 5 】

ステップ S 1 3 で I D の指定がないと判定した場合、全記録データが再生し終わるまで再生が続けられるので、さらに再生すべき記録データが残っている場合は、ステップ S 1 2 に戻って再生を継続する（S 1 4）。一方、ステップ S 1 3 で I D の指定があると判定した場合は、データ記憶部 4 3 に記憶された記録データから、I D に対応する記録データを頭出しして読み出し、再生する（S 1 5）。このように、I D を参照することで、容易に各シーンを頭出しして再生することができる。

【 0 0 8 6 】

このように、本実施の形態に係る興行記録システムでは、ユーザーが I D を指定することによって、その I D に対応する記録データが再生されるようになっている。それゆえ、ユーザーの好みのシーン等を容易に見ることができる。また、携帯装置 3 に、その興行に対する識別子だけでなく、その興行における名場面の画像と、その名場面に対応する I D とを記憶して持ち帰っておくことで、その各シーンの名場面の画像を、記憶されている正確な記録データを部分再生するときのインデックスとして利用することが可能になる。

【 0 0 8 7 】

〔実施の形態 3〕

本発明の実施のさらに他の形態について図 1 1 ないし図 1 3 に基づいて説明すれば、以下の通りである。なお、本実施の形態において、実施の形態 1 および 2 における構成要素と同等の機能を有する構成要素については、同一の符号を付記してその説明を省略する。

【0088】

図 1 1 に示すように、本実施の形態に係る興行記録システムは、実施の形態 1 または 2 の興行記録システムとほぼ同様に、携帯装置 1 または 3 と、情報処理装置 5 または 6 と、放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 と、興行先 1 0 1 とから構成されているが、情報処理装置 5 または 6 が、それぞれ前述の情報処理装置 2 または 4 と構成上異なっている。

【0089】

実施の形態 1 または 2 では、携帯装置 1 または 3 がそれぞれ情報処理装置 2 または 4 に装着された状態で記録データの記憶および再生を行う例について説明した。このことは、つまり情報処理装置 2 または 4 が記録データを記憶および再生を行うためには、携帯装置 1 または 3 がそれぞれ情報処理装置 2 または 4 に装着される必要があるということになる。

【0090】

これに対し、本興行記録システムにおいて、情報処理装置 5 または 6 は、実施の形態 1 または 2 と同様に、識別子のみまたは識別子と ID との組み合わせを携帯装置 1 または 3 から取得するが、その識別子または ID に対応するアイコンを情報処理装置 5 または 6 の再生部 2 8（表示手段）に表示する。このように、情報処理装置 5 または 6 は、ユーザーがいつでもそれらのアイコンを選択可能、つまり活性化可能としておくことによって、携帯装置 1 または 3 が装着されていない状態においても、情報処理装置 5 または 6 において記録データを記憶および再生するように構成されている。

【0091】

図 1 2 に示す情報処理装置 5 は、実施の形態 1 の情報処理装置 2 において、識別子に対応するアイコンを表示しそれらが選択されることで、記録データの記憶

および再生を行うように構成されている。一方、図 1 3 に示す情報処理装置 6 は、実施の形態 2 の情報処理装置 4 において、I D に対応するアイコンを表示しそれらが選択されることで、記録データの記憶および再生を行うように構成されている。

【 0 0 9 2 】

情報処理装置 5 は、図 1 2 に示すように、実施の形態 1 の情報処理装置 2 にアイコン記憶部 5 1 および入力部 5 2 が加えられた構成である。一方、情報処理装置 6 は、図 1 3 に示すように、実施の形態 2 の情報処理装置 4 にアイコン記憶部 5 1 および入力部 5 2 が加えられた構成である。

【 0 0 9 3 】

アイコン記憶部 5 1 は、識別子記憶部 2 2 または識別子／I D 記憶部 4 2 で記憶された識別子（情報処理装置 5 の場合）または I D （情報処理装置 6 の場合）に対応するアイコンを記憶するために、R A M 等の半導体メモリやその他の記憶素子や記憶装置によって構成される。アイコン記憶部 5 1 には、識別子または I D をユーザーが区別して識別するためのアイコンが予め用意されており、ユーザーが入力部 5 2 によって識別子および I D とそのアイコンとの対応付けを行った結果をテーブルの形態で記憶する。また、アイコン記憶部 5 1 は、識別子または I D と対応付けられたアイコンを再生部 2 8 の表示部に表示するために、再生部 2 8 に読み出すようになっている。

【 0 0 9 4 】

アイコンとしては、例えば、図 1 1 に示すように、“a”という識別子に対しては星形のアイコン X を対応付けたり、“b”という識別子に対しては円筒のアイコン Y を対応付けたり、“c”という識別子に対しては立方体のアイコン Z を対応付けたりしてもよい。また、他のアイコンの形態としては、ただ単に“a”という文字、“b”という文字を表示するだけであってもよい。

【 0 0 9 5 】

なお、上記の例では、予め情報処理装置 5 がローカルに保存しているアイコンを使用するが、これに限らず、予め識別子と対応付けられたアイコンを携帯装置 1 から受信してアイコン記憶部 5 1 に記憶するという形態であってもよい。

【 0 0 9 6 】

入力手段としての入力部 5 2 は、再生部 2 8 の表示部に表示されたアイコンを指定するために、例えば表示部の表示面上で入力操作できるタッチパネルのような装置を有している。この入力部 5 2 は、ユーザーによる表示面上のタッチ入力によって指定されたアイコンを、タッチ入力の座標位置で識別子記憶部 2 2 または識別子／ID 記憶部 4 2 に入力するようになっている。識別子記憶部 2 2 または識別子／ID 記憶部 4 2 は、指定されたアイコンの座標位置の情報に基づいて、そのアイコンに対応する識別子または識別子と ID との組み合わせを識別子比較部 2 5 およびデータ記憶部 2 7 または 4 3 に読み出す。

【 0 0 9 7 】

上記のように構成される情報処理装置 5 または 6 を備えた興行記録システムにおいては、ユーザーが携帯装置 1 または 3 を持ち帰って情報処理装置 5 または 6 に装着すると、識別子が携帯装置 1 から情報処理装置 5 に送信される一方、識別子および ID が携帯装置 3 から情報処理装置 6 に送信される。それ以降は、携帯装置 1 または 3 が、必ずしも記録データの記憶もしくは再生が終了するまで、それぞれ情報処理装置 5 または 6 に装着されている必要はない。

【 0 0 9 8 】

その代わりに、情報処理装置 5 または 6 の再生部 2 8 には、受信された識別子または ID に対応付けられたアイコンが、ユーザーが識別子または ID を区別して認識できるように表示される。そして、ユーザーがこれらのアイコンを選択することによって、情報処理装置 5 または 6 において、そのアイコンに対応する記録データの記憶および再生を行う。

【 0 0 9 9 】

例えば、情報処理装置 5 においては、識別子受信部 2 1 から受信された識別子が識別子記憶部 2 2 に一旦記憶された後、その識別子に対応するアイコンが、アイコン記憶部 5 1 から読み出されて、再生部 2 8 に表示される。このとき、例えば各シーンの代表画像などをアイコンとして表示しておけば、ユーザーにとってどのアイコンがどの部分記録データに対応しているかが一目で分かる。

【 0 1 0 0 】

そして、ユーザーが、再生部 2 8 に表示されたアイコンから所望の記録データに対応するアイコンを入力部 5 2 によって選択すると、識別子記憶部 2 2 において、そのアイコンに対応する識別子が読み出される。すると、前述の受信データ分離部 2 4 によって分離された所望の記録データが、その識別子とともにデータ記憶部 2 7 に記憶され、再生部 2 8 によって再生される。

【0 1 0 1】

一方、情報処理装置 6 においては、情報処理装置 5 で用いられた識別子の代わりに、識別子／ID 受信部 4 1 で受信されて識別子／ID 記憶部 4 2 に記憶された ID がアイコンと対応付けられている。また、入力部 5 2 によるアイコンの選択の結果、アイコンに対応する ID とそれに対応する識別子とが読み出されて、上記のような記録データの記憶および再生に利用される。

【0 1 0 2】

上記の記録データの記憶および再生は、実施の形態 1 および 2 で説明した手順と同様の手順で行われる。

【0 1 0 3】

上記のように、本実施の形態の興行記録システムでは、識別子または ID をアイコンと対応付けて、そのアイコンをユーザーに選択できるように再生部 2 8 に表示させ、選択されたアイコンに対応する識別子または ID に基づいて記録データの記憶および再生を行うように構成されている。これにより、受信した識別子および ID に対応するアイコンをユーザーが選択するだけで、それに対応する記録データが再生されるので、実施の形態 1 または 2 の興行記録システムのように携帯装置 1 または 3 をそれぞれ情報処理装置 5 または 6 に常に装着しておく必要がなくなる。

【0 1 0 4】

〔実施の形態 4〕

本発明の実施のさらに他の形態について図 1、図 2、図 6 および図 1 4 に基づいて説明すれば、以下の通りである。なお、本実施の形態において、実施の形態 1 および 2 における構成要素と同等の機能を有する構成要素については、同一の符号を付記してその説明を省略する。

【 0 1 0 5 】

本実施の形態に係る興行記録システムは、図 1 に示す実施の形態 1 の興行記録システムと同様、携帯装置 1 を含んでいるが、その構成が異なる。具体的には携帯装置 1 において、識別子記憶部 1 2 は、興行先 1 0 1 で受信したその興行に対する識別子を記憶するのではなく、予めそのような識別子を記憶している。

【 0 1 0 6 】

これにより、識別子を興行先 1 0 1 で入力するような受信部 1 1 を省くことができる。また、携帯装置 1 を興行毎に 1 回限り発行される入場券（興行用入場券）として用いることができる。携帯装置 1 を入場券として利用することによって、携帯装置 1 を例えばカード状に形成すれば、携帯装置 1 の製作コストを低減させることができる。しかも、興行先 1 0 1 に入場するための入場券として携帯装置 1 を入手することができるので、利用機会が少ないにも関わらず異なる興行に共通して使用できるような携帯装置 1 を購入する必要がなくなる。

【 0 1 0 7 】

したがって、わざわざ興行先 1 0 1 で携帯装置 1 に識別子を記憶させるといった操作が不要になり、一般的な入場券と同様の感覚で識別子を持ち帰ることができる。また、携帯装置 1 のコスト低減によって興行記録システムをより利用しやすくなる。

【 0 1 0 8 】

本実施の形態に係る他の興行記録システムは、図 6 に示すように、携帯装置 3' を含んでいる。この携帯装置 3' は、図 1 4 に示すように、図 7 の携帯装置 3 と同様、識別子／ID 記憶部 3 3、送信部 3 4 および入力／表示部 3 5 を備えており、さらに画像記憶部 3 6 および表示部 3 7 を備えている。また、この携帯装置 3' における識別子／ID 記憶部 3 3 は、前記の識別子記憶部 1 2 と同様、予め識別子を記憶するとともに、前述の ID も予め記憶している。

【 0 1 0 9 】

情報記憶手段としての画像記憶部 3 6 は、ROM などによって構成されており、興行に関連する部分データに対応した画像を予め記憶している。このような画像としては、例えば、興行の各場面でのスナップショットなどが挙げられる。例

例えば、興行先 1 0 1 がミュージカルを催している場合、予め撮影された第 1 幕の名場面の画像、第 2 幕の名場面の画像というように、そのミュージカルでの各場面の代表的なスナップショットが好適である。

【 0 1 1 0 】

再生手段としての表示部 3 7 は、液晶表示装置のような平板型のディスプレイや、その表示を制御する回路などを有している。このような表示部 3 7 は、主に画像を確認するために用いられるので、高画質である必要はなく、また、小型の携帯装置 3' に搭載するために、できるだけ簡素に構成されることが望ましい。

【 0 1 1 1 】

上記のように構成される携帯装置 3' において、識別子／ID 記憶部 3 3 が識別子および ID を記憶しているので、受信部 3 1 を省くことができる。また、画像記憶部 3 6 に、興行に関する画像を記憶させておけば、携帯装置 3' 自体が、興行の思い出をたどる記念物となり、かつ、興行の記録を正確に再生する際の物理的なキーとなる。したがって、携帯装置 3' に単なる入場券に比べて高い付加価値を与えることができる。

【 0 1 1 2 】

なお、携帯装置 1・3' を 1 回限りの入場券として製作する場合、表面に美しいデザインが施されていると、より思い出に残る記念物にすることができる。また、携帯装置 3' を表示部 3 7 の表示面を小さい写真立てのような形状にして製作すれば、思い出の演出効果をより高めることができる。

【 0 1 1 3 】

上記の携帯装置 1・3' は、興行の入場料との関係でそれぞれを使い分けるといった利用の仕方がある。例えば、入場料が比較的高額な興行に対しては携帯装置 3' のような入場券を用い、入場料が比較的低額な興行に対しては携帯装置 1 のような入場券を用いることが考えられる。あるいは、同じ興行の入場券であっても、ボックス席のように高額な席に対しては携帯装置 3' のような入場券を配付し、自由席のような安価な席に対しては携帯装置 1 のような入場券を配付することも考えられる。

【 0 1 1 4 】

なお、本実施の形態では、携帯装置 3' のように、部分データに対応する画像を予め記憶しておく例について説明したが、予め記憶しておくデータとしては画像以外に、テキストや音声（音楽）などであってもよい。ただし、音声を記憶しておく場合、画像記憶部 3 6 の代わりに音声データを記憶できる記憶部を用意するとともに、表示部 3 7 の代わりに音声データを再生できる再生装置（スピーカ、再生回路などを含む装置）を用意する必要がある。

【 0 1 1 5 】

テキストの場合、演劇などのあらすじやプログラムを記憶させることや、音声の場合、コンサートで演奏された曲の 1 フレーズを記憶させるといったことが可能になる。

【 0 1 1 6 】

入力／表示部 3 5 が、表示部 3 7 の機能を兼ね備えていれば、表示部 3 7 を省くことができる。

【 0 1 1 7 】

【発明の効果】

以上のように、本発明のデータ記録装置は、配信媒体を介して配信されたデータを受信する受信手段と、この受信手段によって受信されたデータに含まれるデータ識別子と外部から入力されたデータ識別子とを比較する比較手段と、上記両データ識別子が一致したとき、そのデータ識別子を含むデータを記憶する記憶手段とを備えている構成である。

【 0 1 1 8 】

上記の構成によれば、配信されたデータから、入力されたデータ識別子に対応するデータを選択して記憶することによって、ユーザーが興行先で観覧した興行に対応するデータ識別子によって特定される興行に関するデータを記録することができる。そのデータが、例えば、興行の内容を動画、静止画、音声等の形態で記録したデータであれば、ユーザーは、その興行を観覧するとともに、その興行の内容を記録して残すことができる。したがって、実際の興行を記録に煩わされることなく楽しむだけでなく、その興行内容の正確な記録を容易に得ることができるという効果を奏する。

【 0 1 1 9 】

上記のデータ記録装置においては、データ記録装置とデータ通信可能に設けられ、データ識別子を記憶する携帯装置から、上記データ識別子を外部から入力されるデータ識別子として受け入れる受入手段を備えていることにより、ユーザーが、興行先でデータ識別子を携帯装置に記憶させて自宅に持ち帰り、データ記録装置に装着することによってデータ識別子をデータ記録装置に入力することができる。したがって、データ識別子のデータ記録装置への入力を容易にすることができるという効果を奏する。

【 0 1 2 0 】

また、この構成においては、上記記憶手段から読み出されたデータを再生するデータ再生手段を備え、上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記受入手段からのデータ識別子に対応するデータが既に記憶されているときに、そのデータを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させる一方、上記データが未だ上記記憶手段に記憶されていないときに、上記受信手段によって受信されたデータに含まれるデータ識別子を上記携帯装置からのデータ識別子と比較し、上記記憶手段が、その比較の結果一致したデータ識別子を含むデータを記憶することにより、既に記録されたデータが記憶手段から読み出されて再生される。また、データが記憶されていない場合は、所望のデータが自動的に選択されて記憶される。したがって、再生および記憶のためにユーザーに必要とされる操作が簡素化され、操作性を向上させることができるという効果を奏する。

【 0 1 2 1 】

この構成においては、上記受入手段によって受け入れられるデータ識別子が、上記データに含まれる部分データを識別するための部分データ識別子を含み、上記記憶手段が、その部分データ識別子が受け入れられたときに、該当する部分データを上記データ再生手段に読み出すことにより、ユーザーによって選択された所望の部分データを再生することができる。したがって、興行においてユーザーの見たシーン等を容易に再生することができるという効果を奏する。

【 0 1 2 2 】

あるいは、携帯装置を備える前記の構成においては、上記記憶手段から読み出されたデータを再生するデータ再生手段と、上記受入手段によって受け入れられたデータ識別子に対応するアイコンを表示する表示手段と、上記表示手段によって表示されたアイコンを選択入力する入力手段とを備え、上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記入力手段によって入力されたアイコンに対応付けられたデータ識別子を含むデータが既に記憶されているときに、そのデータを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させることにより、既に記録されたデータが記憶手段から読み出されて再生される。また、アイコンによって再生すべきデータが選択されるので、データ記録装置にデータ識別子を入力するために、データ記録装置を携帯装置と常にデータ通信可能な状態におく必要がなくなる。したがって、再生および記憶のためにユーザーに必要とされる操作が簡素化され、操作性を向上させることができるという効果を奏する。

【 0 1 2 3 】

この構成においては、上記受入手段によって受け入れられるデータ識別子が、上記データに含まれる部分データを識別するための部分データ識別子を含み、上記比較手段が、上記記憶手段に記憶されたデータを参照して、上記入力手段によって入力されたアイコンに対応付けられた部分データ識別子を含む部分データが既に記憶されているときに、その部分データを上記記憶手段から上記データ再生手段に読み出させることにより、アイコンに対応する所望の部分データを再生することができる。したがって、興行においてユーザーの見たいシーン等を容易に再生することができるという効果を奏する。

【 0 1 2 4 】

本発明の興行記録システムは、興行に対して付与されたデータ識別子を興行先で得て記憶する携帯自在の携帯装置と、興行についての記録データをデータとしてデータ識別子と共に配信する配信媒体と、上記携帯装置からのデータ識別子および上記配信媒体からのデータ識別子に基づいて記録データを記憶する、前述のように構成されるいずれかのデータ記録装置とを備えている構成である。

【 0 1 2 5 】

このように、配信されたデータから、入力されたデータ識別子に対応するデー

タを選択して記憶するので、ユーザーが興行先で観覧した興行に対応するデータ識別子によって特定される興行に関するデータを記録することができる。それゆえ、ユーザーは、その興行を観覧するとともに、その興行の内容を記録して残すことができる。したがって、実際の興行を記録に煩わされることなく楽しむだけでなく、その興行内容の正確な記録を容易に得ることができるという効果を奏する。

【 0 1 2 6 】

本発明のデータ記録のためのプログラムは、配信媒体を介して受信されたデータに含まれるデータ識別子と外部から入力されたデータ識別子とを比較する処理と、上記両データ識別子が一致したとき、そのデータ識別子を含むデータを記憶する処理とを実行する。

【 0 1 2 7 】

これにより、前述のデータ記録装置でのデータ記録と同様、配信されたデータから、入力されたデータ識別子に対応するデータを選択して記憶するので、ユーザーが興行先で観覧した興行に対応するデータ識別子によって特定される興行に関するデータを記録することができる。それゆえ、ユーザーは、その興行を観覧するとともに、その興行の内容を記録して残すことができる。したがって、実際の興行を記録に煩わされることなく楽しむだけでなく、その興行内容の正確な記録を容易に得ることができるという効果を奏する。

【 0 1 2 8 】

上記のプログラムは、記憶されたデータを参照して、外部から入力されたデータ識別子と対応するデータが既に記憶されているときに、そのデータを読み出して再生する一方、上記データが未だ記憶されていないときに、上記両データ識別子を比較し、一致したデータ識別子を含むデータを記憶する処理を実行するデータ記録のためのプログラムを記録することにより、前述のデータ記録装置と同様、既に記録されたデータが読み出されて再生される。また、データが記憶されていない場合は、所望のデータが自動的に選択されて記憶される。したがって、再生および記憶のためにユーザーに必要とされる操作が簡素化され、操作性を向上させることができるという効果を奏する。

【0129】

また、上記のプログラムは、いずれも記録媒体に記録されていてもよい。

【0130】

本発明の興行用入場券は、上記の興行記録システムにおける上記携帯装置として用いられ、上記データ識別子を上記興行先で得る代わりに、上記データ識別子を予め記憶するデータ識別子記憶手段を備えていることを特徴としている。

【0131】

これにより、データ識別子を興行先で入力するための手段を省くことができるとともに、この興行用入場券を興行毎に1回限り発行される入場券として用いることができる。携帯装置を入場券として利用することによって、携帯装置の作成コストを低減させることができ、しかも、異なる興行に共通して使用できるような携帯装置を購入する必要もなくなる。

【0132】

したがって、わざわざ興行先で携帯装置にデータ識別子を記憶させるといった操作が不要になり、一般的な入場券と同様の感覚でデータ識別子を持ち帰ることができ、また携帯装置のコスト低減によって興行記録システムをより利用しやすくなるという効果を奏する。

【0133】

上記の興行用入場券は、上記データに含まれる部分データに対応した情報を予め記憶する情報記憶手段と、この情報記憶手段に記憶されている情報を再生する再生手段とを備えていることによって、興行に関する画像などを記憶させておけば、興行用入場券自体が、興行の思い出をたどる記念物となり、かつ、興行を正確に再生する際の物理的なキーとなる。したがって、興行用入場券に単なる入場券に比べて高い付加価値を与えることができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態1に係る興行記録システムの構成を示すブロック図である。

【図2】

上記興行記録システムにおける携帯装置の構成を示すブロック図である。

【図 3】

上記興行記録システムにおける情報処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 4】

上記興行記録システムにおける放送系またはネットワークから受信するデータのフォーマットを示す説明図である。

【図 5】

上記情報処理装置による記録データの記憶・再生処理手順および本発明の実施の形態 2 に係る興行記録システムの情報処理装置による記録データの記憶処理手順を示すフローチャートである。

【図 6】

本発明の実施の形態 2 に係る興行記録システムの構成を示すブロック図である。

【図 7】

図 6 の興行記録システムにおける携帯装置の構成を示すブロック図である。

【図 8】

図 6 の興行記録システムにおける放送系またはネットワークから受信するデータのフォーマットを示す説明図である。

【図 9】

図 6 の興行記録システムにおける情報処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 1 0】

図 8 の情報処理装置による記録データの再生処理手順を示すフローチャートである。

【図 1 1】

本発明の実施の形態 3 に係る興行記録システムの構成を示すブロック図である。

【図 1 2】

図 1 1 の興行記録システムにおける情報処理装置の構成を示すブロック図であ

る。

【図 1 3】

図 1 1 の興行記録システムにおける情報処理装置の他の構成を示すブロック図である。

【図 1 4】

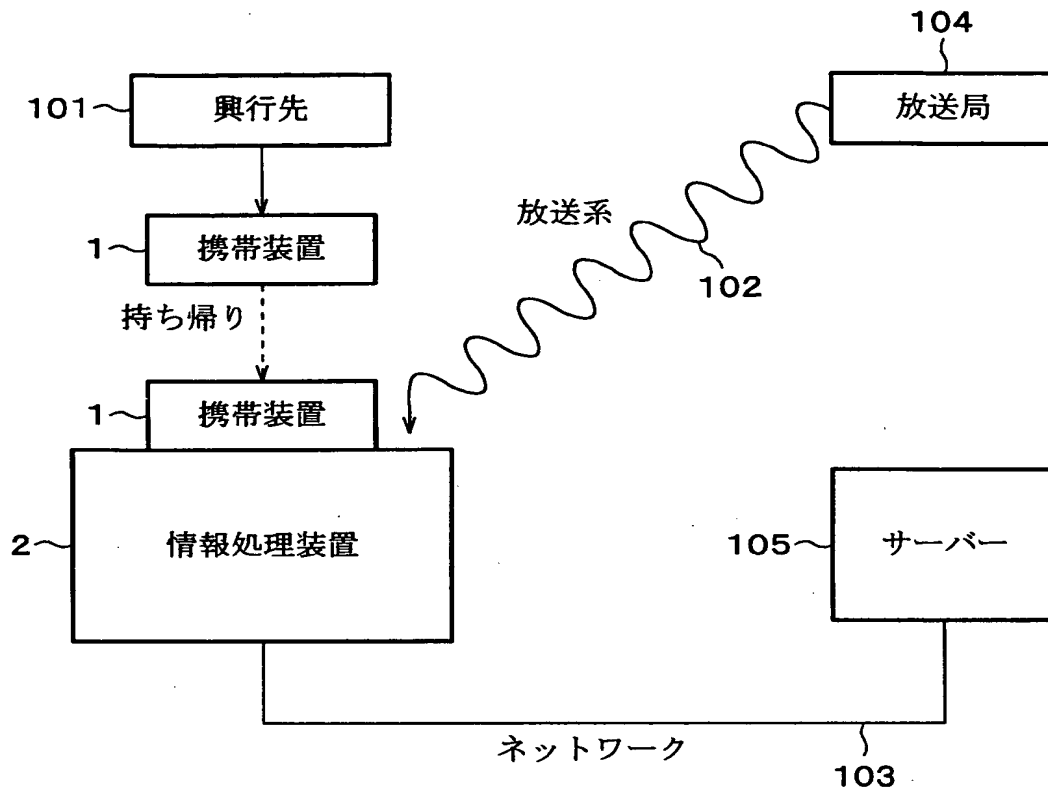
本発明の実施の形態 4 に係る興行記録システムにおける携帯装置の構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

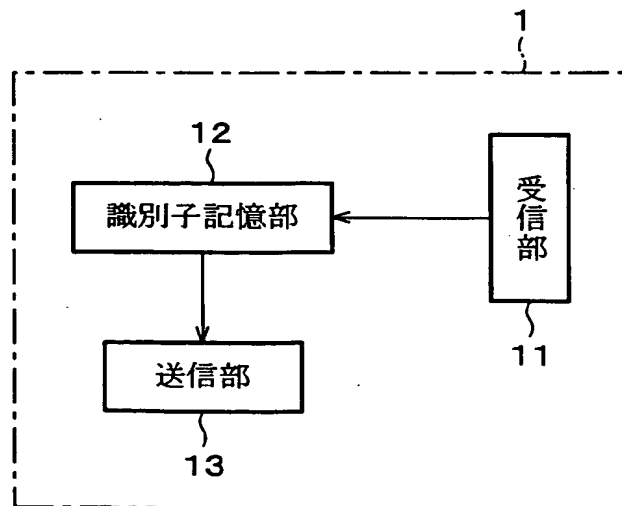
- 1・3 携帯装置
- 2・4～6 情報処理装置（データ記録装置）
- 8 記録媒体
- 1 2 識別子記憶部（データ識別子記憶手段）
- 2 1 識別子受信部（受入手段）
- 2 3 データ受信部（受信手段）
- 2 4 受信データ分離部
- 2 5 識別子比較部（比較手段）
- 2 7・4 3 データ記憶部（記憶手段）
- 2 8 再生部（データ再生手段、表示手段）
- 3 3 識別子／ID記憶部
- 3 6 画像記憶部（情報記憶手段）
- 3 7 表示部（再生手段）
- 4 1 識別子／ID受信部（受入手段）
- 5 1 アイコン記憶部
- 5 2 入力部（入力手段）
- 1 0 1 興行先
- 1 0 2 放送系（配信媒体）
- 1 0 3 ネットワーク（配信媒体）

【書類名】 図面

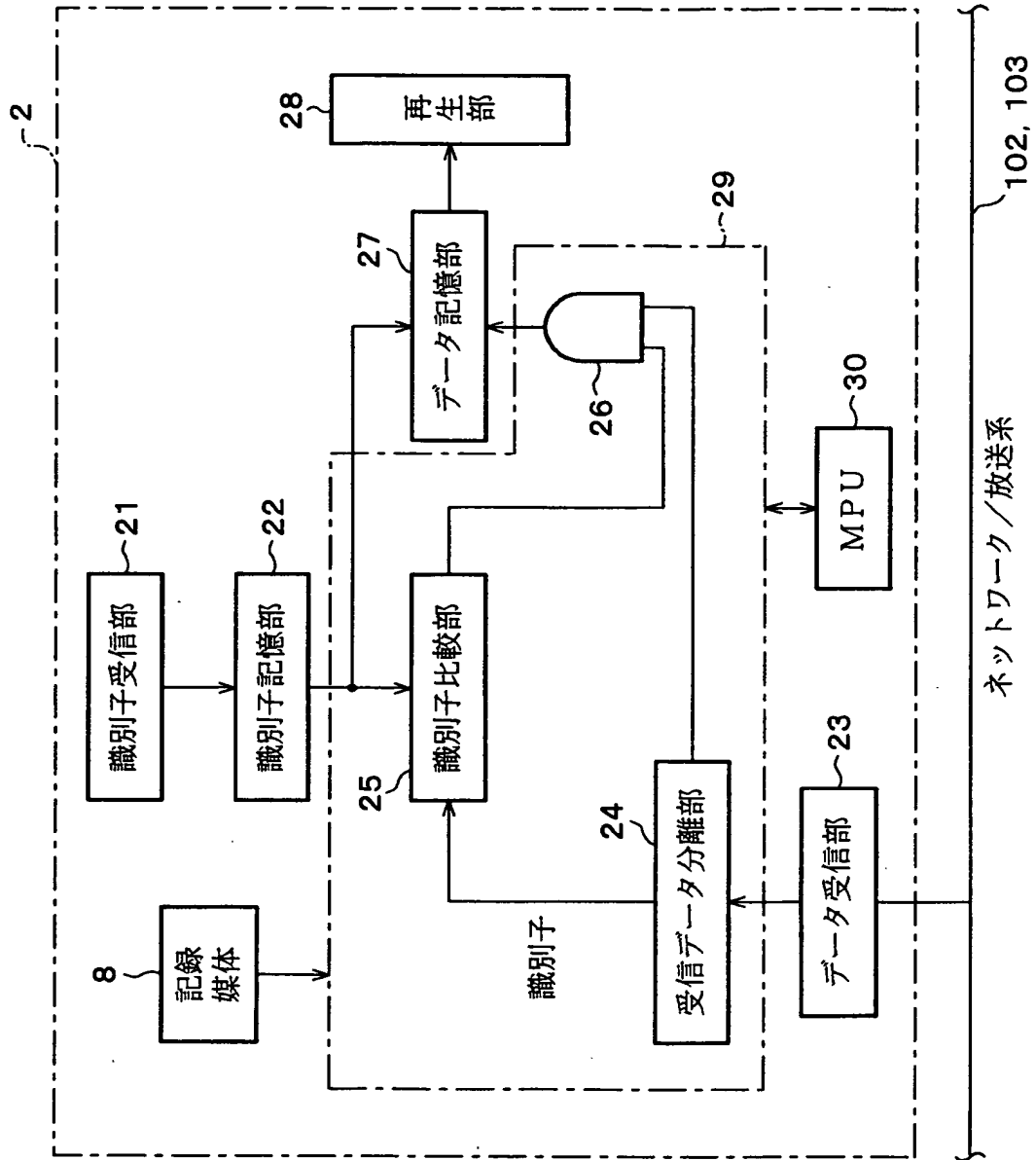
【図 1】



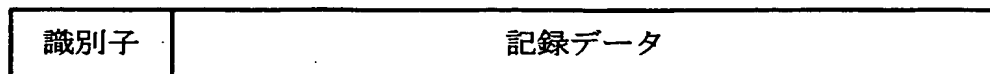
【図 2】



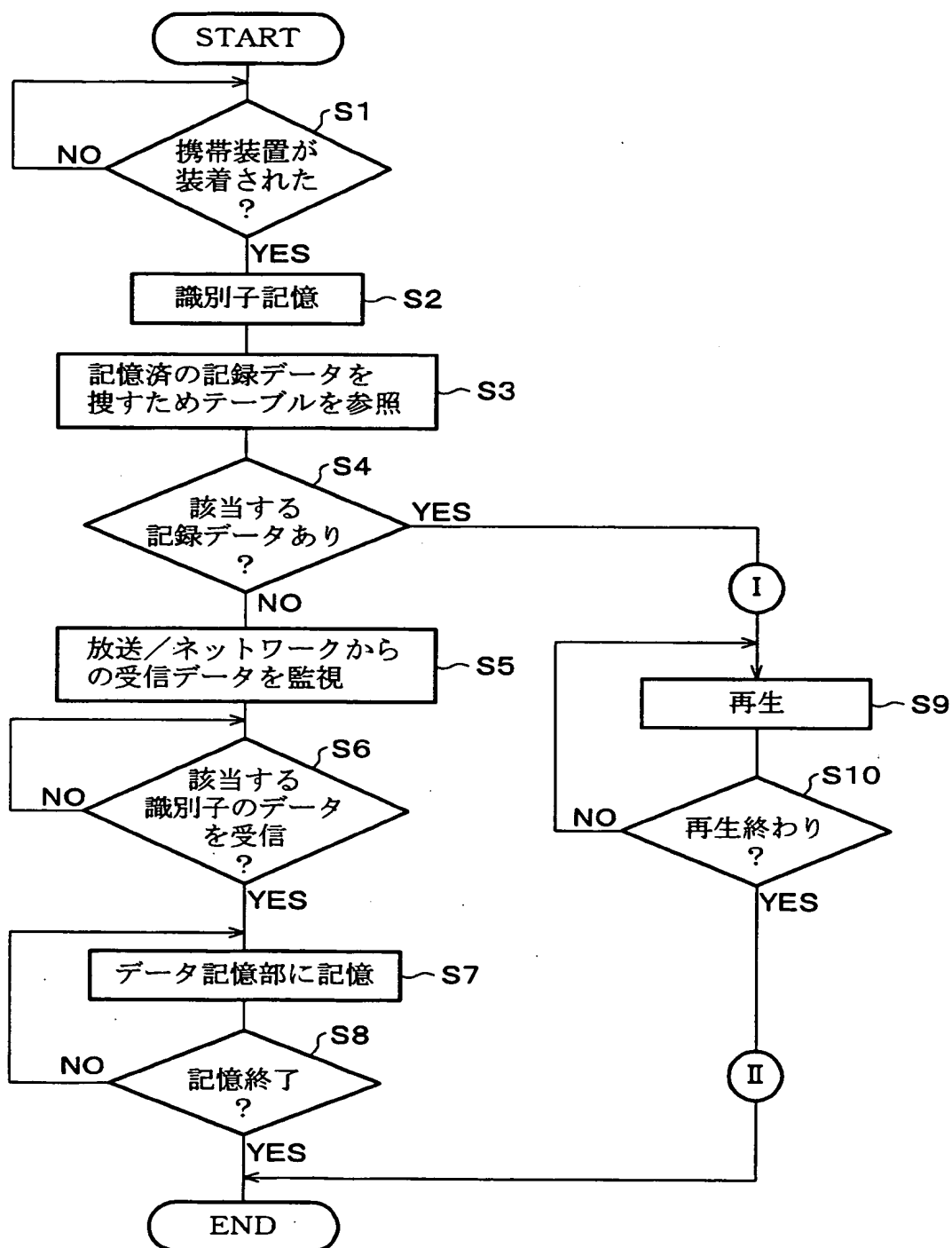
【図3】



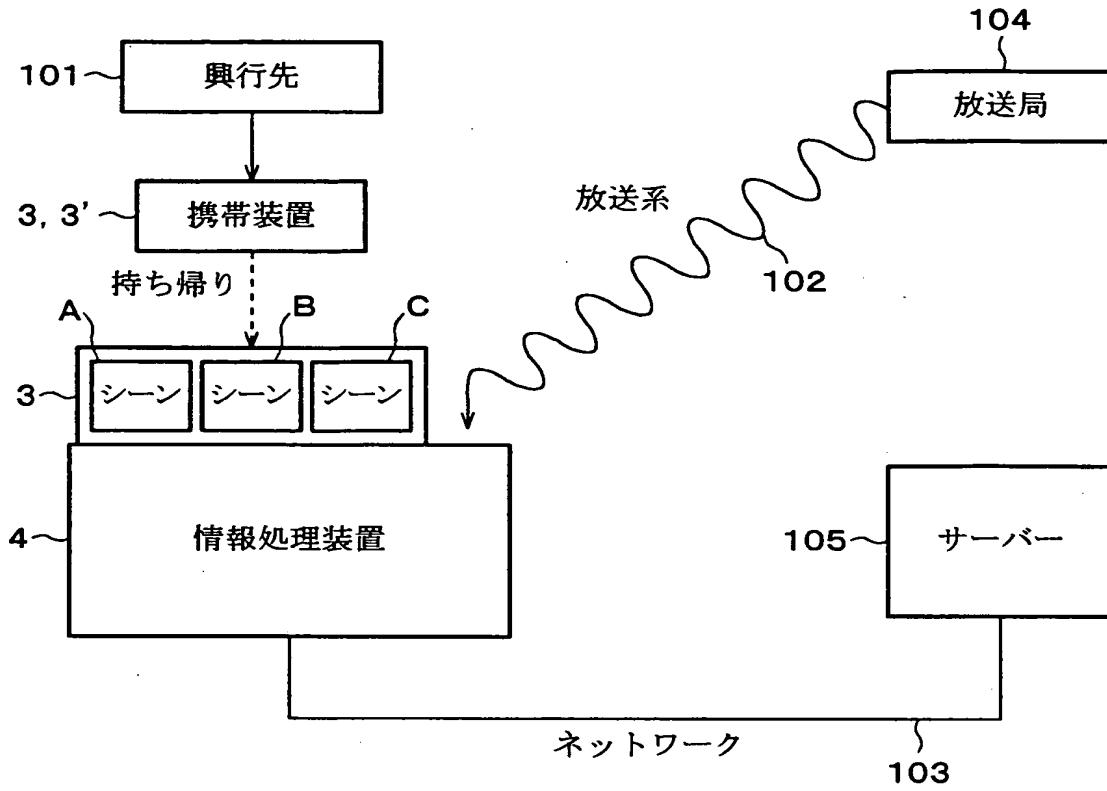
【図4】



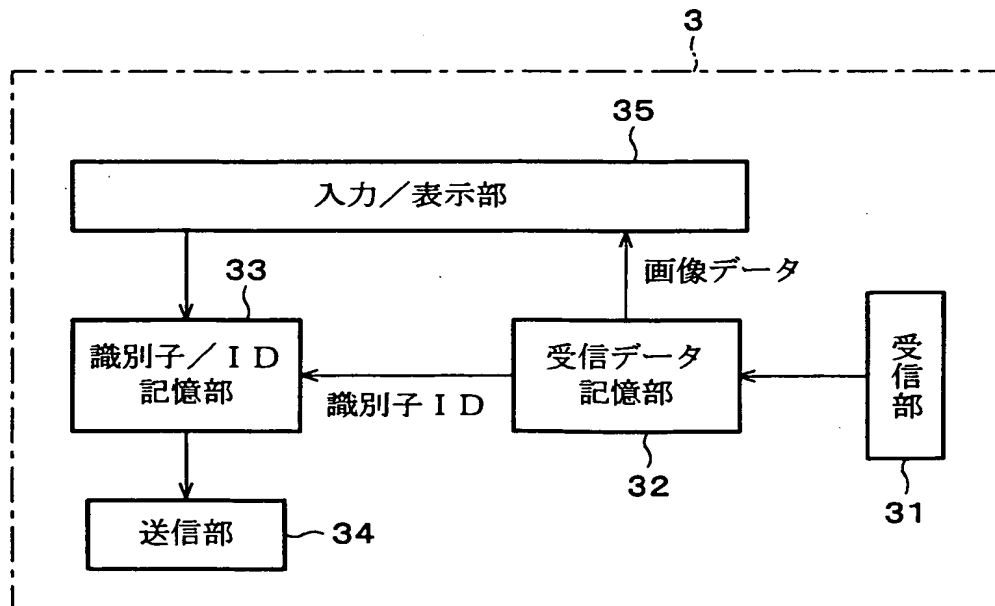
【図 5】



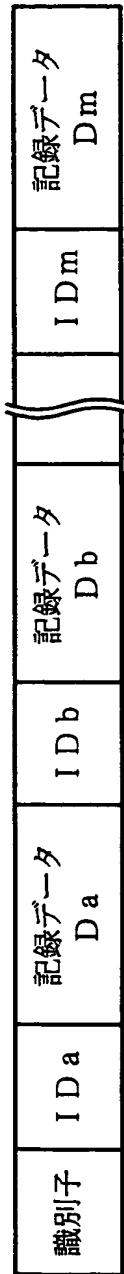
【図 6】



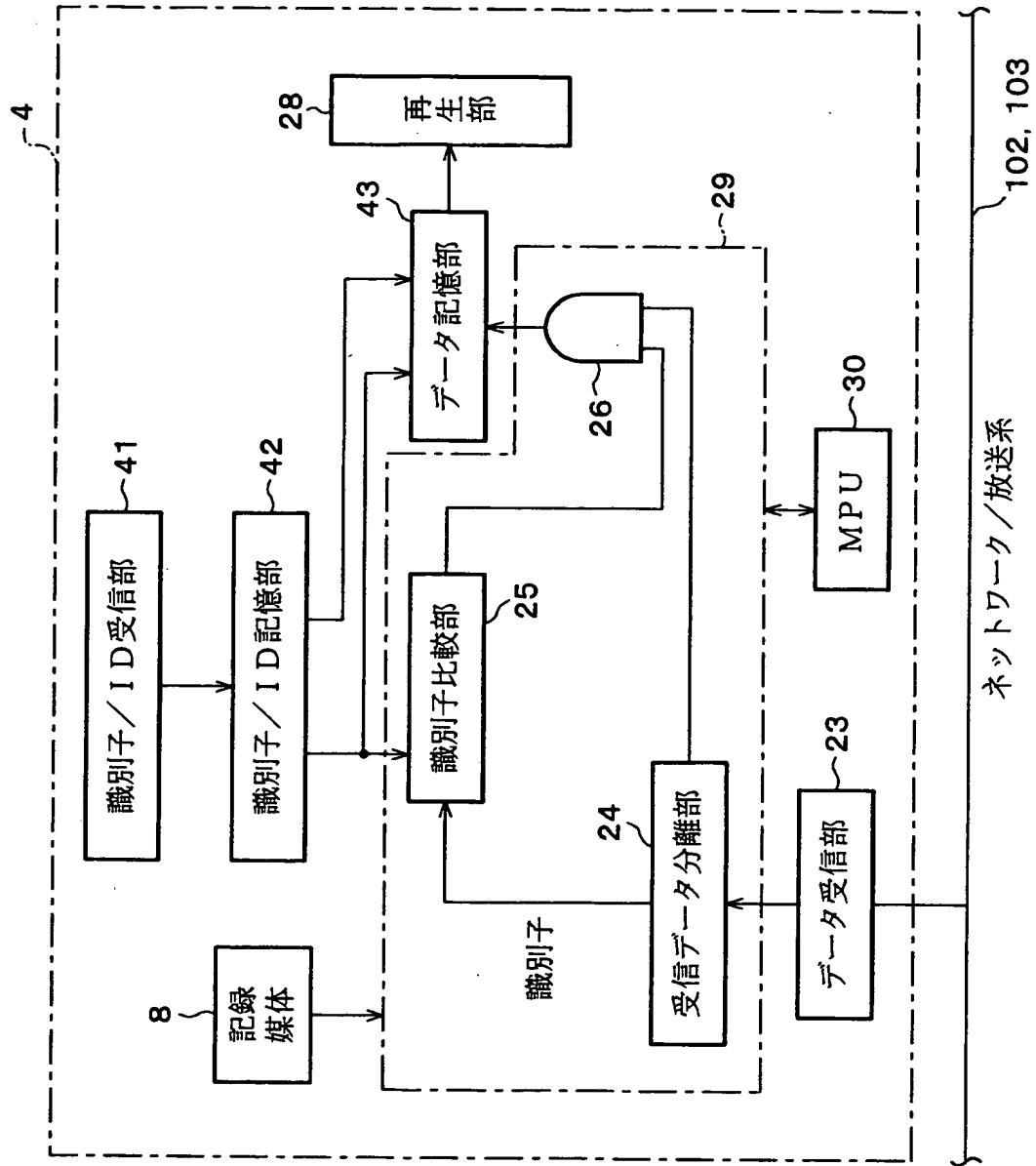
【図 7】



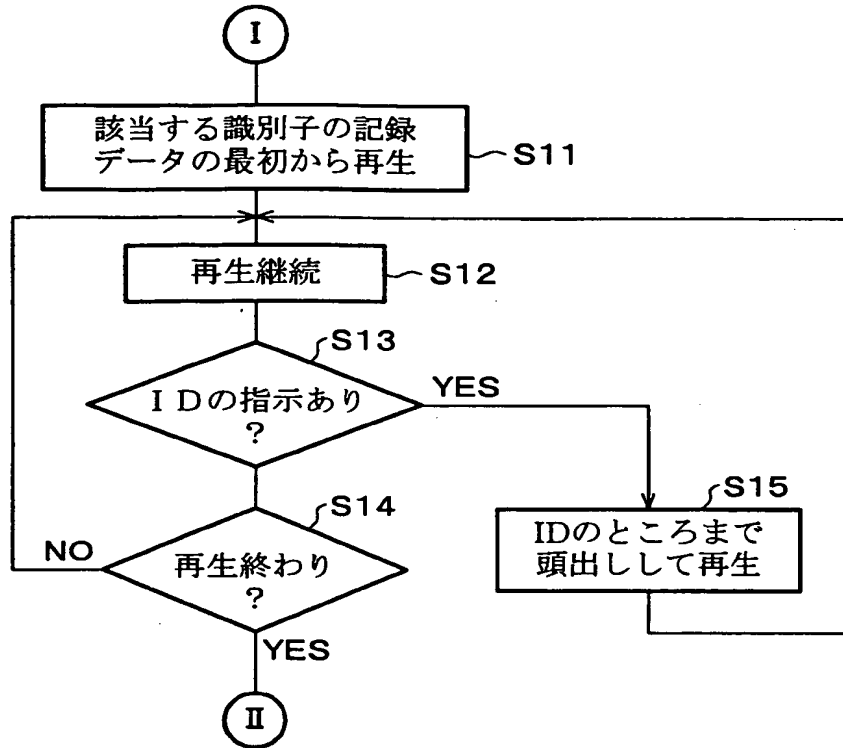
【図 8】



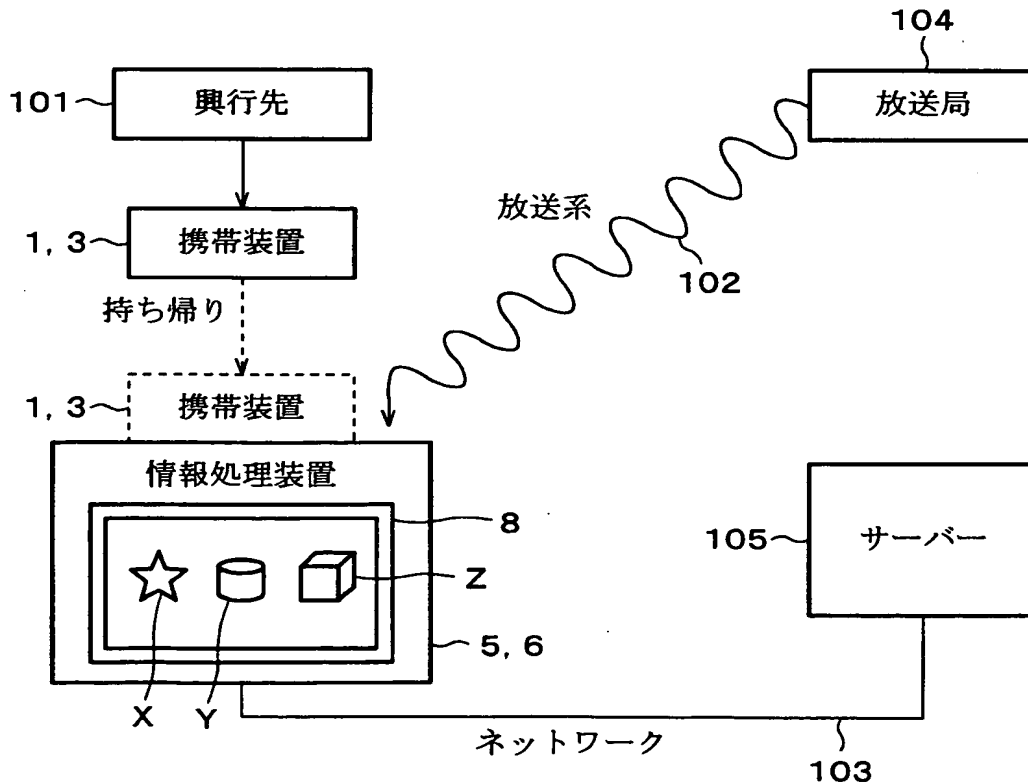
【図9】



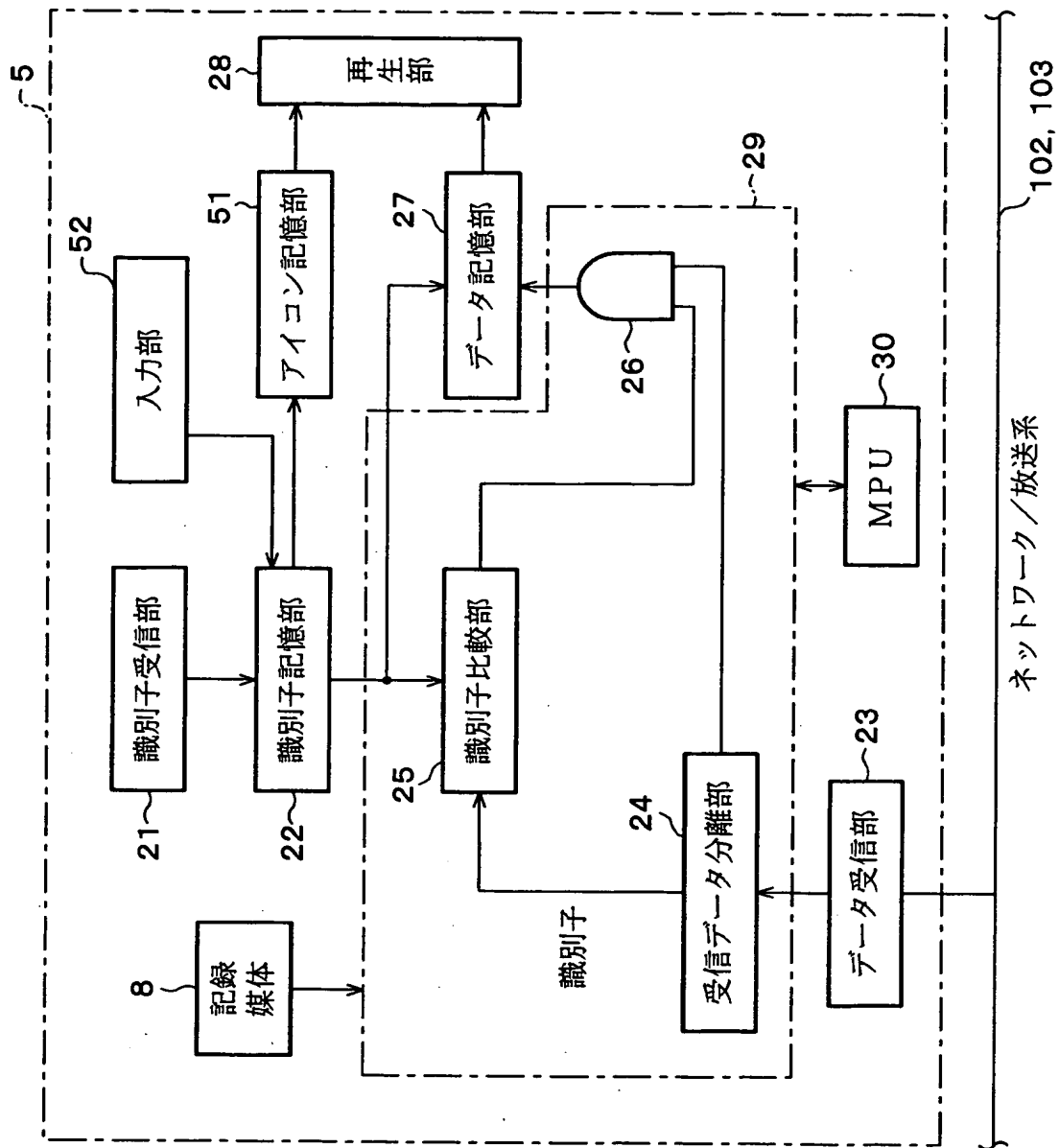
【図 1 0】



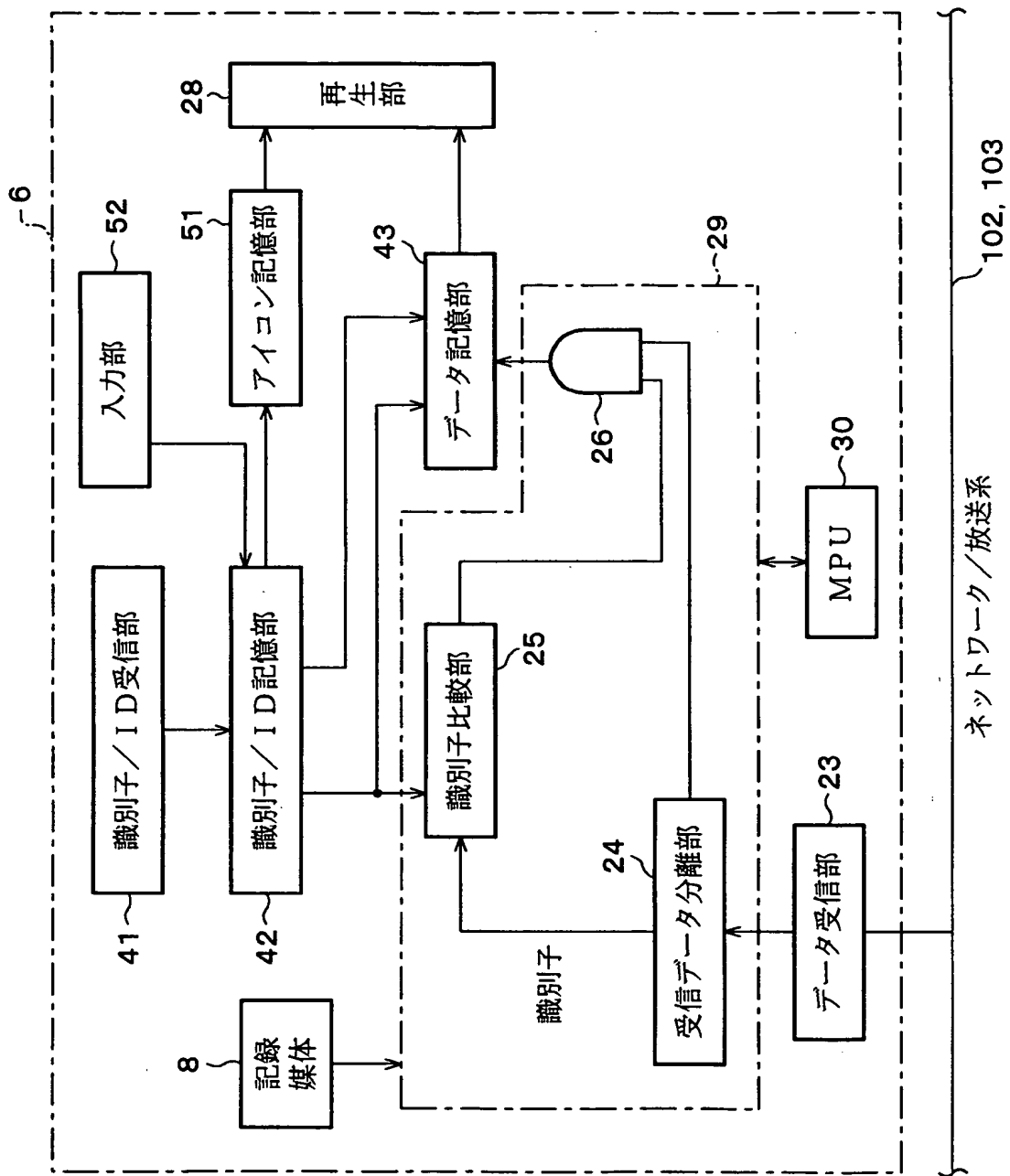
【図 1 1】



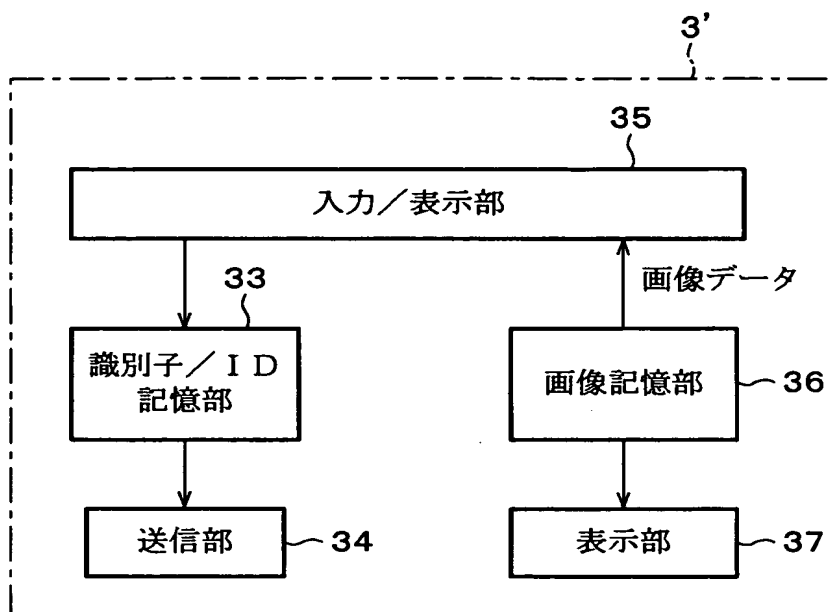
【図 12】



【図 13】



【図 1 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 実際の興行を楽しんだ結果としての臨場感のある思い出を得ると共に、その興行内容の正確な記録を容易に得る。

【解決手段】 ユーザーが、入場券等の形態で提供される携帯装置 1 を持って興行先 1 0 1 に出かけ、その興行に対する識別子を携帯装置 1 に記憶させておく。一方、放送局 1 0 4 またはサーバー 1 0 5 から随時送信される、興行先 1 0 1 で催された興行の記録データを、対応する識別子が付された状態で、放送系 1 0 2 またはネットワーク 1 0 3 を介して情報処理装置 2 で受信する。この受信データから抽出された識別子が携帯装置 1 からの識別子と一致したときに、その識別子に対応する記録データを識別子とともに情報処理装置 2 に記憶する。記録データを再生する場合、携帯装置 1 からの識別子と同一の識別子が情報処理装置 2 に記憶されているかチェックし、記憶されているときにその識別子に対応する記録データを読み出して再生する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日 1990年 8月29日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

氏 名 シャープ株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.